

2024年7月の行事予定表

1	月		16	火	
2	火		17	水	
3	水		18	木	祈禱会
4	木	祈禱会 月報印刷と発送	19	金	
5	金		20	土	
6	土		21	日	大月師
7	日	大月師 聖餐式、役員会	22	月	
8	月		23	火	
9	火		24	水	
10	水		25	木	祈禱会
11	木	祈禱会	26	金	
12	金		27	土	
13	土		28	日	大月師 会堂掃除
14	日	大月師	29	月	
15	月	祝日(海の日)	30	火	
			31	水	※月報印刷と発送は8月1日(木)

7月お誕生・洗礼記念日の皆様おめでとうございます。(敬称略)

編集後記

6月16日(日)の牧師就任式は、出席者の多くが、しみじみとした感謝と畏れをもって見守られたことと思います。

◇ 2012年クリスマスに献身の表明をされた大月康子姉が神学校に進まれ、牧師として奈良西和教会を8年間牧されました。授手礼を受け、“長老”にもなられ、2024年4月に、当教会の後任牧師として着任されたのです。

◇ これを「神わざ」と呼ばずにおれましょうか。土肥理事長の司式のもと、誓約をされる大月先生の姿を、カメラごしに見守りつつ、こみあげるものがありました。

◇ 聖書のことば『神のなさることは、すべて時にかなって美しい。』伝道者の書3章11節(新改訳)

☆礼拝堂内の飲み物について：熱中症予防のため、飲み物(フタの出来るボトルなど)の持ち込みを奨励しております。年々、暑さが危険になってきていますので、各自ご注意くださいをお願いします。

教会月報

2024年7月

No.398

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

関谷 信生先生～生き続ける思い出～

『むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。』(エフェソ 4:15)

年を経て、多くの人に助けられているありがたさに気付くことが多くなっているけれど、反対に、お別れの寂しさや哀しさを味わうことも増えてくる。

5月に、ナザレン教団で48年間牧会された後、引退されていた関谷信生先生が天に召された。誰とも会話や理解を深めたいと願われた先生の言葉は、時に挑戦的で厳しく、煙たがられることが多いことを自覚しておられた。反面、多くの信徒さんと深い交流を持たれた。派遣神学生として藤沢教会に遣わされた私にも、惜しみなく教えて下さった。

「聖書に聴きなさい。信徒さんばかりでなく人のお話から学びなさい」と言われた。み言葉からの新しい発見や、現実や人との関わりの中で聖書を読み解く喜びを、尽きることなく話して下さった。もっとしっかり学んでおけばよかったという後悔と共に、先生の口調や声が、今までよりも強く思い起こされている。

会議に同行させて頂いたある時、小田急線の中で、男子高校生3人がビニール傘を振り回し始め、一本の傘が通路にはじき落とされた。拾おうともしない彼らに、先生は「拾いなさい」と声をかけられた。一瞬驚き、反発する姿勢でふざけ続ける彼らに、もう一度、「傘を拾いなさい」と静かに深く、愛が感じられる声で言われた。彼らは従った。

“愛を持って真理を語る”み言葉を想う時、あの声の響きが浮かんでくる。そしてそれはいつものことであったようにも感じる。

牧師 大月 康子

大月康子牧師就任式おめでとうございます

祈りつつ待ち望んだ大月新牧師就任式の礼拝が6月16日(日)に、ナザレン教団・土肥 努理事長の司式により行なわれました。(29名出席)

土肥理事長の説教に先立って、前牧師・永松 清師よりご紹介をいただきました。つづいて、新約聖書 I テサロニケ 2 章 1～12 節より『神の御心にそって歩む』と題して土肥理事長の説教をいただきました。パウロが記している“伝道者のあるべき姿～父親のように、母親のように、そして幼子のように。”の御言葉から、牧師だけでなく教会員にも求められる“主イエスに倣って従う姿”を示され感謝でした。

土肥理事長説教ののち、大月康子牧師が前に進み出て誓約をされ、続いて教会員も起立して誓約し、大月康子牧師が岡山ナザレン教会の牧師として正式に任命されたことが理事長より宣言されました。

礼拝後は全員で記念撮影し、集会室で歓迎昼食会(司会:S兄)。土肥理事長、前牧師・永松師そして新任牧師・大月師の挨拶をいただき、K兄より大月師へ花束贈呈。皆でお赤飯弁当やお菓子を美味しくいただき、感謝と喜びにあふれた歓迎会となりました。(24名出席)



～左上:土肥理事長ご挨拶 上:永松前牧師挨拶～



～大月牧師挨拶と花束贈呈



証し “備えてくださる主”

A 姉 私はクリスチャンホームに生まれ、大学受験をきっかけに自ら神さまを求めようになりました。看護師として働く中で、辛いことも多かったですが、いつも神さまの導きと守りがありました。出産後、夫と共にベルリンに滞在し、去年二回目の滞在時も神さまの備えを感じました。言葉が分からないにも関わらず、聖霊の助けにより満たされて礼拝出席でき、子供達も恵まれた教会学校生活を送りました。国が違っても、主を中心にする一つの家族であることを強く感じました。私の母はドイツの宣教団が起こした教会で信仰をもち、私も幼い頃ドイツ人宣教師が牧する教会に通っていました。ベルリンでその宣教師を知る方に会い、神さまの業に驚かされました。今後神さまが私にどのような道を備えてくださっているのかわかりませんが、これからも神さまに信頼し、歩んでいきたいです。(詩編139:1～24)



M 兄 私はクリスチャン家庭に生まれましたが、中学から教会に行かなくなりました。中学3年の時、母の祈りで心が落ち着き、再び教会に通うようになりました。大学時代、目の異常でパイロットの夢を断念し、無力感を感じていた時、津田梅子の言葉が心に響き、2000年12月にバプテスマを受けました。以来、「主の慈しみは絶えることがない」(哀歌3:22,23)の御言葉に信頼し、歩んでいます。大学教員として転職・転勤が多い中、神さまが私と家族を守ってくれと信じています。昨年のドイツ滞在中、友人のクリスチャンのお母さんの「子供はたくましく成長する」という言葉が心に残り、子育ても神さまに信頼して歩みたいと思います。

～6月30日礼拝での証しをご本人が要約されたものを掲載～

第15回全国女性大会報告

S.O.姉



◇日時:2024年6月4日(火)～6日(木)
◇会場:ヒルトン福岡シーホークホテル
◇大会テーマ「神の計画はわたしたちの希望」 エレミヤ書 29:11
◇講師:吉崎恵子さん(喜多川広師の孫で、1974年よりFEBC パーソナリティーを務める)

講演1「キリストに結ばれた者」/ 講演2「私の証…FEBCを通して」
8年ぶりの大会は180余名の参加者で開催されました。講師の吉崎さんから、「主イエスに出会う」ためには、①「聖書を繰り返し読むこと、書き写すこと、できるだけ多くのみ言葉を覚え自分に蓄えておくこと」、それら

は必ず救けとなる。②「祈ること、罪の赦しをいただくこと」と語られたことが強く心に残りました。私は、今まで人に神様を伝える良い機会を頂きながら、的を得ないもどかしい経験を度々してきました。その原因は、自分の未熟な解釈で伝えようとする無理があったのです。そうではなく、聖書にあるイエス様が話されたことばや行為そのものを素直に語れば良いこと、そして、必要な時には、蓄えた適切なみ言葉が必ず用意されるというメッセージに諭され励まされました。

岡山教会では先日、成人科メンバーで暗唱聖句を発表しました。K兄は、聖書の書き写しを何年も続けておられます。昔々、FEBCを教えてくださいましたS姉、神に真摯に対峙し、罪の赦しを祈ることを教えてくださいましたN兄(T兄の父)…講演を聞きながら、私の身近でも兄弟姉妹方が「主イエスに出会う」ための導きをずっと示してくださっていたことを思いました。感謝と感動の大会でした。